

## 07. 学生の確保の見通し等を記載した書類(本文)

目次	1
(1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	2
① 学生の確保の見通し	2
ア 定員充足の見込み	2
イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	2
ウ 学生納付金の設定の考え方	4
② 学生確保に向けた具体的な取組状況	5
(2) 人材需要の動向等社会の要請	6
① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的(概要)	6
② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠	6

## (1) 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

### ① 学生の確保の見通し

#### ア 定員充足の見込み

##### 1 入学定員設定の考え方

入学定員設定の考え方は、新設する人文学部人間科学科の開設以降における志願状況を踏まえるとともに、設置圏域（東京都、埼玉県、千葉県）の年齢別人口の動向、高等学校及び中学校の在籍者数、高等学校を卒業した者の大学進学状況、さらには、設置圏周辺地域を中心とする高等学校に在籍している高校生に対する進学需要調査、設置圏周辺地域を中心とする企業等に対する採用意向調査の結果などを総合的に勘案したうえで、入学定員を 100 人としていることから、十分な定員充足を見込むことができるものと考えている。

##### 2 定員未充足の原因分析と定員設定の合理性

既設の淑徳大学短期大学部の健康福祉学科の介護福祉専攻における定員未充足の原因としては、近年の 18 歳人口の減少や高学歴志向による 4 年制大学への進学率の高まりなどが主な要因として考えられるが、他方、介護人材不足が叫ばれる中で、介護現場における賃金問題をはじめ労働条件や労働環境の問題が大きく影響しているものと考えられる。（資料 1）

淑徳大学短期大学部の健康福祉学科の介護福祉専攻の定員充足の在り方については、これまで将来計画の中で重要案件として位置づけ、継続的な検討と対策を重ねてきたところであるが、今般、定員未充足への対応として、令和 5 年 4 月より介護福祉専攻の学生募集を停止し、在学生の卒業を以て廃止することとした。

併せて、淑徳大学短期大学部の健康福祉学科の社会福祉専攻及びこども学科における最近の志願者数や入学者数及び定員充足率の状況とともに、高等教育を取り巻く社会環境の変化などを勘案したうえで、淑徳大学短期大学部について、令和 5 年 4 月の入学生からの学生募集を停止し、在学生の卒業を以て廃止することとした。

なお、淑徳大学短期大学部は、「地域における大学の振興及び若者の雇用機会の創出による若者の修学及び就業の促進に関する法律（平成 30 年法律第 37 号）」に定める特定地域内に位置することから、同法第 13 条第 1 項第 1 号の規定を適用し、淑徳大学短期大学部の入学定員について、淑徳大学が設置する経営学部経営学科と人文学部に新たに設置する人間科学科の入学定員として、特定地域内学部収容定員の増加に係る届出（令和 4 年 2 月届出済）を行うこととしている。

#### イ 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

##### 1 設置圏域の人口動向等

###### (1) 設置圏域の 18 歳人口の動向による中長期的な見通し

全国的に 18 歳人口の減少が予測されている中で、人文学部人間科学科の設置圏域である、東京都、埼玉県、千葉県における 18 歳人口の減少は比較的緩やかな傾向が示されており、1 都 2 県の年齢（各歳）別人口によると、0 歳から 14 歳までの各歳人口は、14 歳の 219,972 人から 0 歳の 184,456 人まで、なだらかな減少傾向で推移していくことから、中長期的にみても入学定員を確保できるものと見込まれる。（資料 2）

###### (2) 設置圏域の高等学校及び中学校の在籍者数

令和3年度の東京都、埼玉県、千葉県のみ1都2県の学校基本調査によると、人文学部人間科学科の開設初年度に受験対象者となる東京都、埼玉県、千葉県の高等学校（全日制）に在籍している2年生の生徒数は197,152人、人文学部人間科学科の設置2年目に受験対象者となる1都2県の高等学校（全日制）に在籍している1年生の生徒数は195,505人となっている。（資料3）

また、人文学部人間科学科の設置3年目に受験対象者となる東京都、埼玉県、千葉県の中学校に在籍している3年生の生徒数は217,970人、人文学部人間科学科の設置4年目に受験対象者となる1都2県の中学校に在籍している2年生の生徒数は219,607人で、1都2県の中学校を卒業した者の高等学校等への進学率を勘案した場合でも、今後、東京都、埼玉県、千葉県の大学受験対象者が大きく減少することはない、中長期的な確保の見通しがあるものと見込まれる。

### （3）設置圏域の高等学校を卒業した者の大学進学状況

#### 1）東京都の高等学校を卒業した者の大学進学状況

令和3年度の学校基本調査によると、東京都内の高等学校を卒業した者の過去3年間の大学等進学状況は、令和3年3月の卒業生数98,943人のうち大学等進学者は68,292人で大学等進学率は69.0%、令和2年3月の卒業生数100,178人のうち大学等進学者は66,737人で大学等進学率は66.6%、平成31年3月の卒業生数101,723人のうち大学等進学者は66,248人で大学等進学率は65.1%となっており、東京都内の高等学校を卒業した者の過去3年間の大学等進学率は、平成31年3月の65.1%から令和3年3月は69.0%と3.9ポイント上昇していることから、東京都内の高等学校を卒業した者の大学受験対象者が大きく減少することはない、中長期的な確保の見通しがあるものと見込まれる。（資料4）

#### 2）埼玉県の高等学校を卒業した者の大学進学状況

令和3年度の学校基本調査によると、埼玉県内の高等学校を卒業した者の過去3年間の大学等進学状況は、令和3年3月の卒業生数55,098人のうち大学等進学者は33,440人で大学等進学率は60.7%、令和2年3月の卒業生数56,643人のうち大学等進学者は33,130人で大学等進学率は58.5%、平成31年3月の卒業生数56,992人のうち大学等進学者は32,731人で大学等進学率は57.4%となっており、埼玉県内の高等学校を卒業した者の過去3年間の大学等進学率は、平成31年3月の57.4%から令和3年3月は60.7%と3.3ポイント上昇していることから、埼玉県内の高等学校を卒業した者の大学受験対象者が大きく減少することはない、中長期的な確保の見通しがあるものと見込まれる。（資料4）

#### 3）千葉県の高等学校を卒業した者の大学進学状況

令和3年度の学校基本調査によると、千葉県内の高等学校を卒業した者の過去3年間の大学等進学状況は、令和3年3月の卒業生数48,202人のうち大学等進学者は28,068人で大学等進学率は58.2%、令和2年3月の卒業生数48,289人のうち大学等進学者は27,030人で大学等進学率は56.0%、平成31年3月の卒業生数48,998人のうち大学等進学者は26,975人で大学等進学率は55.1%となっており、千葉県内の高等学校を卒業した者の過去3年間の大学等進学率は、平成31年3月の55.1%から令和3年3月は58.2%と3.1ポイント増加していることから、千葉県内の高等学校を卒業した者の大学受験対象者が大きく減少することはない、中長期的な確保の見通しがあるものと見込まれる。（資料4）

### 2 設置圏域の高等学校を卒業した者の本学への入学状況

人文学部における最近4年間の都道府県別の入学状況をみると、東京キャンパスの既設学部における入学者数は、625人で、うち、東京都内の高等学校を卒業した者は23.7%にあたる148

人、埼玉県内の高等学校を卒業した者は 21.0%にあたる 131 人、千葉県内の高等学校を卒業した者は 21.4%にあたる 134 人となっており、人文学部における東京都、埼玉県及び千葉県内の高等学校を卒業した者の割合は、入学者総数 625 人の 66.2%にあたる 414 人と高いものとなっている。

最近 4 年間における都道府県別の進学状況からみると、東京都、埼玉県及び千葉県内の高等学校を卒業した者の人文学部への入学者の傾向は今後も続くものと見込まれ、先に記した設置圏域の年齢別人口の動向による中長期的な見通し、中長期的にも安定した志願者と入学者の確保を見込むことができる。(資料 5)

### 3 高等学校の在籍者に対する進学意向調査結果

今般の人文学部人間科学科の設置は、設置圏域内の年齢別人口の動向、高等学校及び中学校の在籍者数、高等学校を卒業した者の大学進学状況などを踏まえたうえで計画していることから、十分な学生確保が見込めるものであるが、人文学部人間科学科の設置計画を策定するにあたり、学生確保の見通しを計量的な数値から確認することを目的として、設置圏域を中心に所在する高等学校の 2 年生及び 1 年生に対する進学意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、高等学校の 2 年生においては、人文学部人間科学科への興味・関心について、回答者数 6,200 人の約 20.02%にあたる 1,241 人が「興味・関心がある」と回答しているとともに、人文学部人間科学科の受験希望については、回答者数 6,200 人の約 4.18%にあたる 259 人が「受験を希望する」と回答しており、人文学部人間科学科への受験意向の高さをうかがうことができる。

また、人文学部人間科学科への進学意向については、人文学部人間科学科が設置された場合、「受験を希望する」と回答した者のうち、人文学部人間科学科に合格した場合、「進学を希望する」と回答した者は、121 人となっており、人文学部人間科学科への進学意向の高さをうかがうことができる。

一方、高等学校の 1 年生においては、人文学部人間科学科への興味・関心について、回答者数 6,945 人の約 24.15%にあたる 1,677 人が「興味・関心がある」と回答しているとともに、人文学部人間科学科の受験希望については、回答者数 6,945 人の約 4.61%にあたる 320 人が「受験を希望する」と回答しており、人文学部人間科学科への受験意向の高さをうかがうことができる。

また、人文学部人間科学科への進学意向については、人文学部人間科学科が設置された場合、「受験を希望する」と回答した者のうち、人文学部人間科学科に合格した場合、「進学を希望する」と回答した者は、122 人となっており、人文学部人間科学科への進学意向の高さをうかがうことができる。

このように、設置圏域に所在する一部の高等学校の 2 年生及び 1 年生に限定した調査結果においても、人文学部人間科学科への進学意向の高さがうかがえることから、十分な志願者数及び入学者数を確保することができるものと考えられる。(資料 6)

### ウ 学生納付金の設定の考え方

学生納付金については、大学及び学部運営に係る財務的な視点と学生納付金の学生への還元など受益者に対する説明責任の観点を踏まえるとともに、設置圏周辺地域における類似学科を設置している私立大学の学生納付金の設定状況を勘案したうえで、完成年度における教育研究経費比率や経

営経費依存率を見極めつつ、大学及び学部運営上における人件費及び教育研究や管理運営に係る経常経費等の財務予測による実質的な採算分岐点に基づく金額として設定している。

本学科の学生納付金は、本学が設置する文系学部（看護栄養学部を除く）の金額と同額であり、その内訳は、入学金 200,000 円、授業料 800,000 円、施設維持費 400,000 円とし、初年学生納付金は、1,400,000 円である。

また、本学科の設置圏周辺地域における類似学科を設置している私立大学の学生納付金と比較して、同額かやや高い設定となっているが、学生募集には影響がないものと考えている。

（資料 7）

## ② 学生確保に向けた具体的な取組状況

学生確保に向けた具体的な取組状況としては、大学案内や学生募集用パンフレットの配布をはじめ、高校生向けの一般広報紙媒体による広報活動の他、ホームページ等の電子媒体など、多数のメディアを使用した PR 活動を行うとともに、過去において入学者の受入れ実績のある高等学校を中心とする訪問活動などによる積極的な情報の提供を行うこととしている。

また、オープンキャンパスや大学見学会をはじめ各地域における進学相談会などの開催を通じて、人文学部人間科学科における学位授与方針・教育課程編成の方針・入学者の受入方針をはじめとする様々な教育情報について、東京都、埼玉県及び千葉県などの設置圏周辺地域を中心とする高校生や保護者、高等学校教諭に対して広く周知を図ることとしている。

### 1 高等学校訪問

高校訪問を中心とする個別募集活動に向けた募集戦略の強化を図ることとしており、具体的には、入試業務全般を所管し、募集広報に係る高校訪問を専門とするアドミッションセンターの職員が中心となって、高等学校を中心とした重点募集対象地域の選定から最重点訪問校や重点訪問校のセグメントによる高等学校募集訪問計画の策定により、高等学校からの確実な入学者の確保を目指すこととする。

高等学校訪問は、募集対象者が多数在籍している高等学校の教員に対して、本学の様々な教育情報を直接的に周知することができるとともに、継続的な訪問活動を行うことで、高等学校の教員との信頼関係を築くことができるものであり、高等学校の教員との信頼関係が構築できた場合には、高校内での生徒に対する進学説明会の実施をはじめ、当該専門分野に進学を希望している生徒の紹介をしてもらえるなどの効果が期待される。

### 2 オープンキャンパス

本学への入学を希望・検討している高校生やその保護者を対象として、施設内を積極的に公開し、本学への関心を深めてもらうための入学促進イベントとして、オープンキャンパスの実施を予定しており、大学紹介や学部・学科紹介、在学生や教職員による施設見学会、教員予定者による模擬授業、大学で学べる学問内容、入学者選抜制度、大学生活についての個別相談や質問を受け付けるなど、受験生や保護者との対面による丁寧な説明を行うことにより、本学への関心を深めてもらうとともに、よりミスマッチの少ない学生を入学させることの効果が期待される。

### 3 高校教員向け説明会

高等学校の教員を対象とする説明会を開催する予定としており、学長による大学紹介、学部・学科別の個別説明、開設初年度の入試概要、奨学金制度、大学施設の紹介など、高等学校の教員と本学の教職員との対面による丁寧な説明を行うこととしており、本学の教育・研究活動等に関

する理解を深めてもらうための情報提供の機会を設けることにより、高等学校の教員が本学への進学を希望する生徒に対する進路指導の際に役立ててもらふことの効果が期待される。

#### 4 進学相談会

全国の主要な都市で開催される民間業者が主催する進学相談会への参加を予定しており、大学・学部資料の配付や個別相談で、卒業認定・学位授与の方針、教育課程編成・実施の方針、入学者受入れの方針、授業科目や講義等の内容、想定される卒業後の進路などに関する情報を広く提供することにより、広域から学生を確保することの効果が期待される。

## (2) 人材需要の動向等社会の要請

### ① 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

#### ア 教育上の目的

人文学部人間科学科では、人類が創出した言語による表現、人類が積み重ねてきた歴史及び社会における人間の行動分析を柱とする人間の所産に関する教育研究を通じて、幅広い基礎的な研究を展開することにより、新しい知識を創造するとともに、幅広い視野から物事をとらえ、的確な判断を身に付けることを教育の目的としている。

#### イ 養成する人材

人文学部人間科学科では、「人の守るべき秩序（倫理）、幅広い知識と教養（教育）、健やかな身体（健康）、人々の幸福で安定した生活（福祉）などを、心理学を基に人間の行動を検証し、一人ひとりの自立を支えるような理想社会の建設と、それを担う人と社会を支える事ができる、幅広い職業人の育成し、地域社会への貢献を目指すことのできる人材の養成を行う。」ことを目的としている。

この人文学部人間科学科における養成する人材の目的を実現するために、学位を授与するに当たり学生が修得しておくべき能力等について、次の通り定めている。

#### 【社会の構成員としての基本的知識・技能・態度】

- ・日本語及び外国語によるコミュニケーション能力を身に付けている。
- ・情報通信機器の活用に関する知識・技能を持ち、利用における法令順守の態度を身に付けている。
- ・人間・文化・社会・国際事情あるいは自然等について幅広い知識と理解を有している。
- ・キャリア形成に向け、自己分析並びに企業等に関する総合的分析能力と手法を身に付けている。

#### 【人文学部人間科学分野における知識・技能・態度】

- ・人文学部人間科学に関する知識を体系的に修得し、社会の多種多様な実践の場で活用する技能・能力を身に付けている。
- ・人間が生活するうえで求める持続可能な幸福を実現するために、心理学、社会福祉学、教育学および健康科学などに関する応用的な知識をもって、地域社会へ貢献する意欲を身に付けている。

### ② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

## ア 卒業後の進路

人文学部人間科学科では、人間科学の学問体系の理解のもと、人間の心理・福祉・健康・教育に関する理論・方法・内容・制度などの基礎的な知識を修得したうえで、それらの知識を現場で活用することができる実践的な能力を修得するとともに、現代社会における人間を取り巻くところと身体健康に関わる諸課題の理解のもとに、人間発達・人間援助・人間支援の観点から保健・福祉・健康・教育活動に貢献する態度を養うこととしている。

このことから、卒業後の進路としては、例えば、医療機関や福祉施設などにおいて、こころの悩みや問題を抱えている人やその家族からの相談を受け、問題の解決にむけた助言や支援を行う業務に携わることが想定され、また、老人ホームをはじめとする高齢者福祉施設などにおいて、サービスを利用する人やその家族の心と身体健康管理に関する支援や指導などを行う業務に携わることが想定されるとともに、児童厚生施設や児童養護施設などにおいて、他の専門職者と協力して、児童の自立や健康の増進のための生活援助や学習支援・運動指導などを行う業務に携わることが想定される。

## イ 卒業生の採用意識調査

人文学部人間科学科の設置計画を策定するうえで、卒業後の具体的な進路や地域社会の人材需要の見通しなどについて把握するために、本学への求人実績や卒業生の採用実績がある社会福祉施設や医療関連機関等を中心として、人材の充足状況及び人文学部人間科学科の設置の必要性や人文学部人間科学科で学んだ卒業生に対する採用意向に関するアンケート調査を実施した。

その結果、人材の充足状況については、有効回答数 135 件の約 4.44%にあたる 6 件が「非常に不足している」と回答しており、有効回答数 135 件の約 28.15%にあたる 38 件が「不足している」と回答しているとともに、有効回答数 135 件の約 52.59%にあたる 71 件が「若干不足している」と回答していることから、人材不足の状況をうかがうことができる。

また、人文学部人間科学科で養成する人材像については、有効回答数 135 件の約 90.37%にあたる 122 件が「必要性を感じる」と回答しており、人文学部人間科学科で学んだ卒業生の採用については、回答件数 135 件の約 87.41%にあたる 118 件が「採用したいと思う」と回答しており、卒業生の採用に積極的な意向を示している。

人文学部人間科学科で学んだ学生を「採用したい」と回答した施設、企業等の採用人数については、「採用人数 1 人」と回答したのが 10 件、「採用人数 2 人」と回答したのが 11 件、「採用人数 3 人以上」と回答したのが 15 件、「採用人数未定」と回答したのが 81 件となっている。

なお、「採用人数 3 人以上」と回答した施設、企業等の採用人数を 3 人、「採用人数未定」と回答した施設、企業等の採用人数を 1 人として、これらの採用人数を合計すると 158 人となり、この採用人数からも人文学部人間科学科で学んだ学生に対する採用意向の高さをうかがうことができる結果となっている。

このような 1 都 2 県（東京都、埼玉県、千葉県）を中心に所在する福祉施設、医療機関、生活関連サービス業、スポーツ施設、一般企業等及び本学への求人実績や卒業生の採用実績がある施設、企業等に限定した調査結果においても、人文学部人間科学科で学んだ学生への採用意向の高さがうかがえる結果となっていることから、卒業後の進路については十分な見通しがあると考えられる。（資料 6）